



魔獣大陸 第1部
川又千秋/永井 豪
角川書店
(6/10刊・¥880)

ノヴェル&コミックとある。小説とマンガが混じり合った本。例えば、絵で描き切れないう説明部分を小説が担当したり、挿絵でよりイメージを明確化したりと、相互の補強材料につかう方法も考えられる。しかし、本書の場合、基本的にはコミックが主導で、物語のテンポもコミックの進行に対応しているように思えた。

地球出発後二五〇年、宇宙船ユリーカは、極端なまでに変貌した地球に帰還した。地軸が九〇度転回し、南極大陸が赤道直下にあるのだ。文明は壊滅していた。異様な生物たちが、至るところに棲息する南極——しかも、その背後には、不気味な謎の存在があった。

ほぼ、二〇〇頁の作品である。読んだ感じでは、長篇の第一部まで、といったところ。コミックのテンポだ、と書いたけれど、ようやくプロローグ終了のこのベースは、いかにコミック的。まだ今の段階では、あまり紹介するほど話が進んでいない。女主人公にも、舞台にも、出てくる生物にも、みんな謎があって、後の伏線になっているようだ。メカは少ないが、そのままアニメになりそうな多彩さはある。後は続刊のお楽しみ。